

## 塘研究室現地調査報告

4月13日、長瀬川・酸川の底生動物相調査を横山君と塘の二人で実施しました。調査地点は上流側から長瀬川若宮付近、酸川（三右衛門付近）、長瀬川橋下、猪苗代大橋上、長瀬川河口の5ヶ所です。長瀬川若宮付近は前回の最上流よりもさらに上流で、酸川（三右衛門付近）と猪苗代大橋上は前回も実施した場所、長瀬川橋下は酸川との最後の合流部よりも下流です。

長瀬川若宮付近にはクラカケカワゲラ属などの大型カワゲラ類やヒメフタオカゲロウなどが多く、川岸付近のコカナダモが繁茂する水溜まりにはオオエゾヨコエビ、ヌカエビ、センブリ属が多く見られました。酸川が合流した後はやはりコオノオナシカワゲラとフクシマクロカワゲラが多く、レゼイナガレトビケラ、チャイロシマチビゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウなど酸性河川にみられる種が確認されました。河口付近にもコオノオナシカワゲラ、フクシマクロカワゲラ、チャイロシマチビゲンゴロウは見られました。前回、融雪水の影響でpHが中性を示した猪苗代大橋上では、左岸側でpHを測定したところ、やはり酸性を示しました。



長瀬川若宮付近



酸川三右衛門付近



長瀬川橋下流



猪苗代大橋上流



長瀬川河口付近



羽化直後のフクシマクロカワゲラ